

作成日 2016/02/24

改訂日 2023/01/17

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	アースフロン 仕上ワックス
製品コード	650400
整理番号	HNT0031298-4
供給者の会社名称	東日本塗料株式会社
住所	124-0006 東京都葛飾区堀切3丁目25番18号
担当部門	品質保証部
電話番号	0480-65-5880
FAX番号	0480-65-5798
緊急連絡電話番号	0480-65-5880
推奨用途	塗料

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	自然発火性液体 区分に該当しない 自己発熱性化学品 区分に該当しない 水反応可燃性化学品 区分に該当しない 酸化性液体 区分に該当しない 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない（分類対象外）か分類できない。
物理化学的危険性	
GHSラベル要素	情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
非公開	100%	—	非公開	非公開	非公開

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合	眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡、噴霧水、乾燥砂、粉末、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	情報なし。
火災時の特有の危険有害性	加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

<p>具及び緊急時措置</p>	<p>関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。</p>
<p>環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び 機材</p>	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 危険でなければ漏れを止める。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、ポンプで汲み取る。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い</p>	
<p>技術的対策</p>	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
<p>安全取扱注意事項</p>	取扱い後はよく手を洗うこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
<p>接触回避 衛生対策</p>	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。
<p>保管</p>	
<p>安全な保管条件</p>	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

<p>設備対策</p>	特別な換気要求事項はない。
<p>保護具</p>	
<p>呼吸用保護具</p>	必要な個人用保護機器を使用すること。
<p>手の保護具</p>	必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。
<p>眼、顔面の保護具</p>	必要に応じて個人用の眼の保護具を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

<p>物理状態</p>	液体
<p>形状</p>	液体
<p>色</p>	乳白色
<p>臭い</p>	特異臭
<p>融点／凝固点</p>	データなし
<p>沸点又は初留点及び沸点範囲</p>	情報なし
<p>可燃性</p>	データなし
<p>爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界</p>	データなし
<p>引火点</p>	引火せず
<p>自然発火点</p>	情報なし
<p>分解温度</p>	データなし
<p>pH</p>	7.4 ~ 8.4
<p>動粘性率</p>	データなし
<p>溶解度</p>	データなし
<p>n-オクタノール／水分配係数</p>	データなし
<p>蒸気圧</p>	データなし
<p>密度及び／又は相対密度</p>	データなし
<p>相対ガス密度</p>	データなし

粒子特性 データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 データなし。
 化学的安定性 通常の条件下では安定である。
 危険有害反応可能性 反応性なし。
 避けるべき条件 データなし。
 混触危険物質 酸化性物質、その他一般的な混触禁止物質との混触を避ける。
 危険有害な分解生成物 燃焼などによりCO等の有害ガスを発生させる恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性 データなし
 皮膚腐食性／刺激性 データなし
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 データなし
 呼吸器感作性 データなし
 皮膚感作性 データなし
 生殖細胞変異原性 データなし
 発がん性 データなし
 生殖毒性 データなし
 特定標的臓器毒性（単回ばく露） データなし
 特定標的臓器毒性（反復ばく露） データなし
 誤えん有害性 データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性） データなし
 水生環境有害性 長期（慢性） データなし
 生態毒性 データなし
 残留性・分解性 データなし
 生体蓄積性 データなし
 土壤中の移動性 データなし
 オゾン層への有害性 モントリオール議定書の付属書に列記された物質を含まない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 汚染容器及び包装 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制
 海上規制情報 該当しない
 Marine Pollutant Not applicable
 Liquid Substance Not applicable
 Transported in Bulk
 According to MARPOL
 73/78, Annex II, the IBC
 Code
 航空規制情報 該当しない

国内規制	取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。 陸上輸送 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。 海上輸送 船舶安全法に定めるところに従う。 航空輸送 航空法に定めるところに従う。
陸上規制	該当しない
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	該当しない
緊急時応急措置指針番号	なし

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（非該当PRTR法）	
消防法	非危険物

16. その他の情報

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により訂正されることがあります。全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは保証出来ません。記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。

連絡先	東日本塗料株式会社
参考文献	溶剤便覧 製品評価技術基盤機構(NITE) メーカーSDS 日本工業標準調査会「JISZ7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」 日本工業標準調査会「JISZ7252 GHSに基づく化学品の分類方法」 日本塗料工業会編集「容器イエローカード(ラベル方式)塗料マニュアル改訂版」 日本ケミカルデータベース製物質データベース

その他
[注 意] 危険性・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱には十分注意して下さい。
この製品の製品安全データシートの記載内容のうち含有量、物理化学的性質などの値は、保証値ではありません。
記載内容は現時点で入手できる資料、情報に基づいて作成しておりますが、すべての化学品には未知の有害性があり得る為、取扱いに当たっては細心の注意が必要です。
注意事項は通常の取り扱いを対象としたものである為、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。
又それらが実際の使用状況に相応しているか、環境保護の目的にそってしているか、あるいは貴社の従業員の方々や貴社製品購入者の健康・安全を損なわないか等については、貴社の責任にてご判断願います。